

## 釧路市におけるトウキョウトガリネズミの初記録

照井 滋晴<sup>\*1</sup>・深津 恵太<sup>\*2</sup>・伊原 禎雄<sup>\*3</sup>

First record of Eurasian least shrew, *Sorex minutissimus hawkeri* from Kushiro-shi  
Shigeharu TERUI<sup>\*1</sup>, Keita FUKATSU<sup>\*2</sup> and Sadao IHARA<sup>\*3</sup>

### Summary

In this study, we captured three individuals of the Eurasian least shrew, *Sorex minutissimus hawkeri* from the coastal sand dunes in Kushiro City, Hokkaido, Japan. The species had not been recorded from this area earlier. All captured individuals were estimated to be young-of-the-year individuals based on the results of external measurements. This species was found to coexist with three other shrew species. Coastal sand dunes may provide certain conditions for the coexistence of the four species of shrew. Results of this survey suggested that coastal dunes are the main habitat of *S. minutissimus hawkeri* in this area.

### はじめに

トウキョウトガリネズミ *Sorex minutissimus hawkeri* は、ユーラシア大陸に広く分布するチビトガリネズミの亜種である (Ohdachi & Kawahara 2015)。日本国内では主に北海道に分布するが、その分布は局所的である。北海道東部においては、標茶町の虹別原野 (阿部 1961)、中標津町の当幌 (小宮 1970)、標津町の伊茶仁 (前川・近藤 1980; 近藤 2016)、根室市の別当賀 (北海道新聞 2003)、浜中町の琵琶瀬湾、火散布、藻散布、嶮暮帰島 (河原 2005)、釧路町入境学 (近藤 1986) など確認されている。成獣の体サイズは、全長  $80.3 \pm 2.64\text{mm}$ 、尾長  $29.9 \pm 0.68\text{mm}$ 、重量  $2.4 \pm 0.31\text{g}$  であり (Ohdachi & Kawahara 2015)、世界で最も小さな哺乳類の一種である。生息環境は、ササや低木がまざる草原、湿原周辺の草地、針葉樹林、海岸砂丘など多様である (河原 2005; 阿部ほか 2008)。環境省の作成するレッドリスト 2020、北海道の作成する北海道レッドリスト【哺乳類編】改訂版 (2016 年) ではともに絶滅危惧Ⅱ類に選定されており、絶滅の危機が増大してきていると判断されている (北海道 2016; 環境省 2020)。

今回、筆者らが釧路市内の数地点で実施していたトガリネズミ類の生態調査の中で、これまで釧路市内において分布の記録がなかった本種が捕獲されたのでここに報告する。なお、筆者はトガリネズミ類の生態調査のため、北海道 (令和 2 年度、釧路総合振興局第 604 号) と環境省 (令和 2 年度、環境省第 20-171 号) から捕獲の許可を得ている。

### 調査地及び方法

調査地は、釧路市大楽毛に位置する海岸である (北緯 43 度 00 分、東経 144 度 15 分、標高約 2m)。釧路湿原の南には、海岸に並行して走る砂丘が形成されており、本調査地もその一部である (岡崎 1960)。調査地付近は、汀線から北方向に約 30m の位置に浜堤があり、その範囲には植物が生育しておらず、以降はハマニンニク *Leymus mollis* が優占する海浜性植物群落を形成している (図 1)。



図 1. 調査地の風景 (2020 年 7 月撮影)

調査には、小型サンショウウオの捕獲調査に用いるビットフォールトラップ (以下、PFT) を用いた。PFT は塩化ビニール製の円筒パイプを輪切りにし、「ネズミ返し」を上部に、また水抜き用の穴をあけた底板に

※ 1 NPO 法人環境把握推進ネットワーク -PEG NPO Environment Grasp Network -PEG  
通信著者 E-mail: shigeharu.t0121ar@gmail.com

※ 2 NPO 法人釧路湿原やちの会 NPO Kushiro Shitsugen Yachi-no-kai

※ 3 北海道教育大学釧路校 Hokkaido University of Education Kushiro campus

あけた墜落缶である(図2 A)。PFTは、汀線から内陸へ約50mの位置に、海岸線と並行するように15m毎に20基埋設した。トラップには高さ30cm、長さ50cmに切った畔波板を誘導板として2枚併設した(図2 B)。調査は、8月17日～22日、9月14日～19日、10月5日～10日の日程で実施した。調査日の初日にPFTの蓋開けを行い、翌日から連続5日間、午前中にトラップ埋設区域を見回って落下個体を確認した。調査時以外は、トガリネズミ類を含む小動物などが落下しないよう、トラップには蓋や砂を被せた。捕獲した個体は、ノギスで外部形態(全長、尾長、前掌長、前掌幅、後掌長、いずれも1mm単位)、デジタルスケールで重量(0.1g単位)を測定した。その後、生存個体は放獣し、死亡個体は北海道教育大学釧路校へ運び、開腹し雌雄の判別を行った後、冷凍保存した。種の同定は、阿部(2000)及び飯島・土屋(2015)に従った。

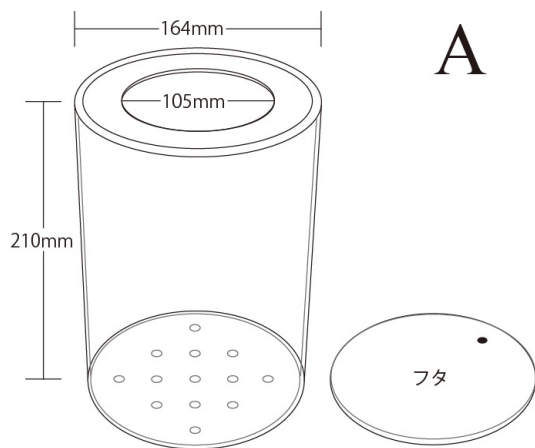


図2. 調査に用いたピットフォールトラップ。A: 模式図, B: 設置状況

### 結果

調査の結果、トウキョウトガリネズミ3個体を捕獲することができた(図3)。捕獲日は、10月8日2個体、10月10日1個体であった。捕獲した3個体のうち2個体はトラップ内で既に死亡していたため、北海道教育大学釧路校に運び標本として冷凍保存した。生存していた1個体については、外部計測後に捕獲地点付近に放逐した。本調査では、本種以外に、オ

アシトガリネズミ *S. unguiculatus*、バイカルトガリネズミ(エゾトガリネズミ) *S. caecutiens*、ヒメトガリネズミ *S. gracillimus* の3種も捕獲している。また、本種を含むトガリネズミ類の餌になり得るイソコモリグモ *Lycosa ishikariana*、ハマダンゴムシ *Tylos granuliferus*、ハマトビムシ科 Talitridae の仲間なども捕獲できた。

外部形態の平均値(±標準偏差)は、全長  $68.3 \pm 0.6$ mm、尾長  $26.7 \pm 0.6$ mm、重量  $1.6 \pm 0.1$ gであった。各個体の外部計測値は表1に示す通りである。いずれの個体も Ohdachi & Kawahara (2015) に記載の本種の成獣及び若齢個体(全長  $81.3 \pm 2.99$ mm、尾長  $32.5 \pm 2.15$ mm、重量  $2.0 \pm 0.24$ g)よりも小型であったが、尾率(全長に対する尾長の割合)は Ohdachi & Kawahara (2015) の範囲内であった。加えて、上顎の単尖歯は前方から後方に向かって低くなり、単尖歯列長は第1・第2臼歯を合せた長さより短いという特徴を有しており、阿部(2000)及び飯島・土屋(2015)の記載と一致した(図4)。捕獲時に死亡していた2個体については、開腹し、雌雄の判別を行ったところ、両個体とも雌であった。

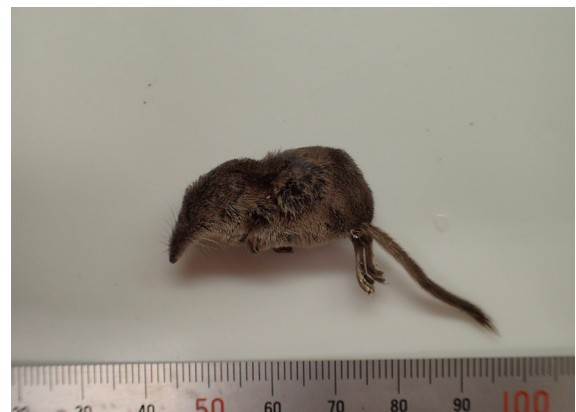


図3. 捕獲したトウキョウトガリネズミ

表1. 捕獲個体の外部計測値一覧

No.	捕獲日	全長 (mm)	頭胴長 (mm)	尾長 (mm)	前掌長 (mm)	前掌幅 (mm)	後掌長 (mm)	重量 (g)	雌雄
1	2020/10/8	68	41	27	5	2	8	1.6	♀
2	2020/10/8	68	42	26	5	2	8	1.5	♀
3	2020/10/10	69	42	27	5	2	8	1.7	—



図4. 捕獲したトウキョウトガリネズミの歯列。図中①～⑤は上顎の第1～第5単尖歯。A, Bは、それぞれ上顎の単尖歯列長、第1・第2臼歯長。

## 考察

本調査の結果、これまで分布記録のなかった釧路市内に本種が分布していることが明らかになった。捕獲した個体はいずれも Ohdachi & Kawahara (2015) に記載の外部計測値より小型であったことから、より若齢な個体であると考えられた。

本調査地は、浜中町における本種の生息地（琵琶瀬湾、藻散布、嶮暮帰島）と同様に海岸砂丘であり（河原 2005）、海岸砂丘が本種の生息地として機能していることを改めて確認することができた。筆者は、釧路湿原（低層湿原）の複数地点において2018年以降、約2000個体のトガリネズミ類を捕獲しているが（照井未発表）、トウキョウトガリネズミの分布は確認できていなかった。本調査地では、他の3種のトガリネズミも同所的に捕獲できており、海岸砂丘は4種のトガリネズミ類が共存できる何らかの条件を満たしているのだと考えられるが、他種との関係性については今後の課題としたい。いずれにせよ、本調査結果は、本地域においては湿原環境よりも海岸砂丘が本種の主要な生息地になっていることを示唆するものである。今後、周辺域の海岸砂丘に調査範囲を広げていくことで分布の詳細を明らかにすることができると考えられる。しかし、海岸砂丘の開発による本種の生息地の減少が危惧されている（河原 2016）。事実、北海道東部の海岸付近では、近年太陽光発電施設を建設する事例が増加しており、本種の生息環境の分断や消失が懸念される。そのため、早急に本種の詳細な分布範囲を把握し、積極的な監視と保全対策を実行することが望まれる。

## 謝辞

本調査の実施にあたる鳥獣捕獲許可証の交付の際に環境省釧路自然環境事務所及び釧路総合振興局の関係各位にお世話になった。また、現場調査では京都大学の富森祐輔氏にご協力いただいた。皆様には、厚く御礼申し上げます。

## 引用文献

- 阿部 永 . 1961. 北海道にて採集された稀種オヒキコウモリ及びトウキョウトガリネズミについて . 哺乳動物学雑誌 , 2: 3-7.
- 阿部 永 . 2000. 日本産哺乳類頭骨図説 . 北海道大学図書刊行会 , 札幌 .
- 阿部 永・石井信夫・伊藤徹魯・金子之史・前田喜四雄・三浦慎伍・米田政明 . 2008. 日本の哺乳類改訂2版 . 東海大学出版会 , 神奈川 .
- 北海道 . 2016. 「北海道レッドリスト【哺乳類編】改訂版(2016年)」([https://www.pref.hokkaido.lg.jp/fs/2/4/8/8/2/6/6/\\_/redlist\\_honyurui2016kategory.pdf](https://www.pref.hokkaido.lg.jp/fs/2/4/8/8/2/6/6/_/redlist_honyurui2016kategory.pdf)) 2021年12月1日確認 .
- 北海道新聞 . 2003. 絶滅危急・トウキョウトガリネズミ道東で17年ぶり確認 . 11月18日 , 日刊 : 21.
- 飯島正広・土屋公幸 . 2015. モグラハンドブック . 文一総合出版 , 東京 .
- 環境省 . 2020. 「環境省レッドリスト2020」(<https://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf>) 2021年12月1日確認 .

- 河原 淳 . 2005. 北海道厚岸郡浜中町におけるトウキョウトガリネズミ *Sorex minutissimus kawkeri* について (1) . 森林野生動物研究会誌 , 31: 11-18.
- 河原 淳 . 2016. 海岸に棲んでいたトウキョウトガリネズミ . 北海道ネイチャーマガジンモーリー . 42: 30-31.
- 小宮輝之 . 1970. 北海道産トウキョウトガリネズミの採集記録 . 哺乳動物学雑誌 , 5:195.
- 近藤憲久 . 1986. IV動物 第1章 哺乳類 . 道立自然公園総合調査(厚岸道立公園)報告書 . p129-141. 財団法人北海道自然保護協会 , 札幌 .
- 近藤憲久 . 2016. 12. 標津湿原の哺乳類 . 天然記念物標津湿原保全対策調査報告書-平成25~27年度標津湿原天然記念物緊急調査事業報告書 -. p293-316. 標津町教育委員会 , 標津 .
- 前川光司・近藤憲久 . 1980. 知床半島のトガリネズミ , ネズミ類の採集報告-初冬-. 知床博物館研究報告 , 2: 39-42.
- Ohdachi D. S. & Kawahara A. 2015. *Sorex minutissimus* Zimmermann, 1780. The Wild Mammals of Japan second edition (Ohdachi D. S., Ishibashi, Y., Iwasa A. M. & Saitoh T. eds.). p2-3. Shoukadoh, Kyoto.
- 岡崎由夫 . 1960. 北海道釧路平原の沖積世の古地理 - 釧路平原生成過程の研究第5報 -. 第四紀研究 , 1 (7) : 255-262.